

進め！ 銚子ジオパーク！

問合せ

銚子ジオパーク推進協議会事務局（生涯学習課内）

☎（24）8739、FAX（22）33466

大地の声を人がつなぐ



▲銚子ジオパークのPR大使「ジオっちょ」（写真左）と、銚子PRキャラクター「ちょーぴー」（2月17日・ウオッセ21）

銚子の主力産業は農業や水産業、食品などの製造業です。私たちの生活は、豊かな大地の恵みに支えられているのです。それは同時に、銚子に暮らす私たちは、この大地の恵みと共生して後世に伝えなければならぬ、ということでもあります。

大地は気候変動や地震など、さまざまな自然現象を通して、地球の変化を私たちに訴えかけてきます。

これまで、私たちは自分たちの考え方によって大地の恵みを利用し続けてきましたが、今一度、この大地の声に耳を傾け、よりよい状況で後世に伝えていくことを考える時期に来ているのではないのでしょうか。

ジオパーク活動を通して大地の仕組みを学び、人との関わりを考えるということは、人と自然がどのようにして末永く共存していくかという「持続的発展」を、真剣に考えることでもあります。大地の声に気付き、その意味を考え、後世に伝えていくことができるのは、私たち自身なのです。

銚子ジオパーク活動が始まってから、ジオガイドへの参加やジオサイトの清掃、ジオパーク関連商品の考案やパンフレット配布といったPR活動など、大勢の方が自分でできる形で未来へ伝える活動をしています。

これからも銚子ジオパーク推進協議会は、人と人をつなぎ、地域振興の柱となるようにジオパーク活動を推進していきます。

今月の表紙



44年ぶりに鳴り響く汽笛
SLおいでよ銚子号

2月9日(土)～11日(月・祝)の3日間、JR成田線の佐原―銚子駅間で蒸気機関車「SLおいでよ銚子号」が運行され、沿線では3日間あわせて14万人を超える人出でにぎわいました。このイベントは、東日本大震災で低迷する県内の観光を盛り上げようと、JR東日本千葉支社が企画したもので、SLが銚子を走るのは44年ぶりのことです。

運行初日には、沿線の佐原駅(香取市)、笹川駅(東庄町)、銚子駅の各駅で記念式典が開催され、多くの家族連れや鉄道ファンが詰めかけました。また、各駅前では運行の3日間、地元特産品を販売する出店が並び、観光客を楽しませていました。

銚子市内の沿線各所では、市民同士が呼びかけあい、フラダンスやよさこい踊りなどでSLを歓迎するプロジェクトが展開されました。本城小学校の校庭には約300人の市民が集まり、人文字や「ようこそ銚子へ」と書かれた横断幕を掲げ乗客に手を振るなど、沿線一帯は歓迎ムードに包まれました。

